

STAGE+を楽しむ(187)(HP 収載)

—ネルソンスのマーラー9番—

1. 始めに

前報(186)に引き続き、STAGE+のネルソンスのマーラー9番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はネルソンスのマーラー9番の演奏を選びました。

ライブ配信 2024年8月11日 18:00

アンドリス・ネルソンスとウィーン・フィルによるマーラーの“第9番”

ザルツブルク音楽祭 2024

再配信 2024年8月12日 3:00

再配信 2024年8月12日 9:00

アンドリス・ネルソンスはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とマーラーの交響曲全曲演奏を行っており、本映像ではザルツブルク音楽祭のライブ・ストリーミングで、マーラーの「遺言」ともいえる傑作、交響曲第9番をご覧いただけます。音楽に身を捧げ、病に苦しんだ作曲家自身の人生を描き出したような劇的な作品です。なお、この作品の初演はウィーン・フィルが行っており、現代の同楽団と最も注目すべき指揮者であるネルソンスの共演は見逃せません。

演奏:

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

アンドリス・ネルソンス

曲目:

グスタフ・マーラー 交響曲第9番ニ長調



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

8月12日 9:00からの再配信を試聴しました。

このところネルソンスはウィーン・フィルとともにマーラーの交響曲の演奏に取り組んできており、今回もその流れに沿っています。

2018年：2番 2020年：6番 2021年：3番

2022年：5番 2023年：7番

そういった経過から、今回も手慣れた演奏と言えそうです。

上記の解説にあるように、病に苦しんでいるマーラー自身の人生を描いた、「遺言」ともいえる、重苦しくシリアスな表情が展開されていきます。終章では木管や弦の長いピアノシモが続き、終末的様相を呈します。

オーケストラの音は、本拠地のウィーン楽友会館での演奏ほどではありませんが、弦などはウィーン・フィルの特徴が再現できています。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、ネルソンスとウィーン・フィルのコンビで、手慣れたマーラーの演奏を聴くことができました。

以上